

# オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2025年1月20日第50号 (通巻56号)  
オリーブの会  
大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
tel/fax:072-737-9454  
mail: oribunokai@gmail.com  
facebook:oribunokai  
blog: olivenokai.hatenablog.com



## ガザ停戦が実現、その後の問題

1月19日ガザでの捕虜の解放

### 停戦

1月15日停戦の合意が発表され、1月19日から6週間の停戦が始まることになった。ガザの人々は、喜びに沸いたが、イスラエルはその日も攻撃の手は緩めず、16日にかけて97人のパレスチナ人を殺害した。また、イスラエル政府は16日に閣議で停戦を確認するということだが、遅れていて、17日に閣議決定をした。

極右のベン・グビールは、停戦することは、「イスラエルの敗北だ」といった。ハマスも、イスラエルは、何の目標も達成されていず、イスラエルはパレスチナの抵抗の前で、敗北した宣言した。ハマスは壊滅されるどころか抵抗を続け、その兵員は増えているといわれており、また、イスラエル人の捕虜も解放することはできていない。イスラエルが実現したのガザの住民の大量虐殺だけである。

19日の人質交換の開始は、ハマスから人質のリストが届かないと理由で、3時間開始が遅れた。その間にイスラエルは14人のパレスチナ人を殺害した。3人のイスラエル人女性をイスラエル側に引き渡して、ようやく夜中になって、オフエル刑務所から90人のパレスチナ人の被拘束者がラマラへと向かった。イスラエル占領軍は、解

の旗を掲げないように脅して回った。パレスチナ人の家族たちは、夜中にも関わらず、大勢の人が出迎えた。

その中でも注目されたのは、PFLPの政治局員で立法議会議員であるハリダ・ジャラルさんでした。黒髪だった彼女の頭髪は真っ白になっていた。彼女は何度も、行政勾留され、娘の葬儀に参加することもできなかった。そして、最近になって、彼女の拘束条件が悪化していることを手紙で伝えていた。その姿は、イスラエル獄中の過酷さを示すものとなった。

また、イスラエル軍が壊滅したというハマスは、停戦と同時に警察活動を開始、人質交換に当たっては、ハマス戦闘員が大勢警備を行っていた。この姿はイスラエルにショックを与えただろう。イスラエルは、引き渡しの方を変えようとして仲介者に要求した。

停戦は、第一段階として、6週間続き、33人の人質を釈放し、2000人近いパレスチナ人被拘束者を解放し、イスラエル軍は、人口密集地から撤退する。第二段階で残りの人質を釈放し、イスラエル軍が完全に撤退し、第三段階で、ガザの再建段階に入るというものである。

しかし、ネタニヤフは、いつでも戦闘を再開する権利を保留するといいい、あくまで戦闘継続の意思を示してい

る。また、もう一人の右翼スモトリッチは、第二段階にはいれば内閣をつぶすと宣言している。

イスラエル軍は、ガザの停戦の成立と同時に西岸への攻撃強化し、ジェニンにこれまで最大の攻撃を行い。民間人にテロを行った。ジェニンはガザのような状態にある。

### イスラエルが停戦に臨まざる得ない要素

第一に、イスラエルが目標としていたハマスの壊滅も人質の解放も1年3か月経っても実現していないこと。交渉だけが人質の解放ができることが明らかであり、ガザの民間人を大量に虐殺しても、ハマスは壊滅できず、イスラエルの報道機関でさえ、ハマスが戦闘員を拡大していると報道している。

第二に、停戦と人質解放をもとめるイスラエル国民の声である。イスラエルの多くの国民は、戦争の継続は、ネタニヤフの政治生命を維持するためだけであることを知っており、戦争の継続は人質なった人々が生きて帰れる可能性を奪っていることを知っているからである。昨年の10月から毎週抗議行動を行ってきた。それが無視できない状況になってきた。

第三に、米国の圧力、バイデンは政権交代までに停戦を実現しなかった。トランプ次期世間の圧力が強かったといっている。トランプもまた。就任前に停戦を実現しなかった。イスラエルは、米国の歴代大統領で、もっともイスラエル寄りのトランプとの関係を強めようと考えた。トランプ政権の新しい国連大使は、議会の公聴会で、パレスチナ人の自決権を認めず、西岸が聖書を根拠にイスラエルのものであるというスモトリッチの立場を支持した。

第四に、シリア、アサド政権の崩壊とヒズボラ、イランの弱体化で、「新中東」の実現の可能性が高くなったこと。その最後の仕上げとして、サウジとの正常化のためには、ガザの停戦が重要であった。これでトランプが提唱してきた「アブラハム同盟」完成し、中東和平をパレスチナ抜きで実現することになる。

### パレスチナ

ハマスは、壊滅されるどころか、現在も抵抗を続けており、イスラエル軍に損害を与えている。抵抗勢力への支持も維持され、イスラエルの報道でも兵員は増えているといわれている。

ハマスと自治政府とのガザの将来の話し合いを行ったにも関わらず、シリアでの政変のあとは、自治政府はハマスがガザを統治することは許さないという立場にかわり、さらに、治安維持の名目で、西岸の抵抗勢力の拠点ジェニンを攻撃し、イスラエル軍を助けている。西岸の

抵抗勢力は、占領軍と自治政府の治安軍との戦いを強いられている。唯一、ファタハだけが、治安軍の攻撃を支持しており、他の抵抗勢力との間に大きな矛盾が生まれている。

自治政府の変化は、シリアのアサド政権の崩壊、イランの影響力の低下によって、パレスチナの抵抗勢力の後ろ盾がなくなったと見て、米国、イスラエルの側にたつて自治政府の延命を図ろうとするものである。自治政府は、もともと、シリアのアサド政権、イランとの関係は悪く、反対にファタハ以外の抵抗勢力は、歴史的に良好な関係にあった。ハマスとガザの統治について話し合っていたにも関わらず、アサド政権が崩壊したら、ハマスの統治は認めないと言い始めた。そこには、米国、イスラエルの力を借りて、ガザを支配しようと目論んでいるのである。しかし、自治政府が期待するようにハマスは弱体化されておらず、ガザの住人のハマスへの支持は強い。また、イスラエルは自治政府による支配も認めないとしている。

自治政府の支配をガザの人々は受け入れることはむづかしく、抵抗勢力との対立になっていく。イスラエルは、それを利用して、西岸のような支配をする可能性が高い。

### 「新中東」

アサド政権の崩壊は、中東でのイラク、リビアを倒した延長線上にあり、中東での反帝国主義勢力の最後の解体であり、新政権に対する西欧、アラブ反動諸国のシリア訪問にその意図が反映されている。新政権はイスラエルにも敵対しない。イスラエルにとっては、願ってもない状況であり、シリアの新政権がイスラエルに対抗できないように、イスラエル軍は、アサド政権下の重兵器の全面的破壊を行い、ゴランで緩衝地帯を超えて、占領を拡大している。

ガザに連帯して戦ったヒズボラーは、指導者を暗殺され、イスラエル軍によってレバノン中の拠点を破壊され、その力は弱められ、停戦をのまざるえなかった。同時にそれは、イランのレバノン、シリアへの影響力を弱めることになった。

イスラエルは、あとサウジとの正常化を果たせば、「アブラハム同盟」「新中東」は完成する。そして、そのために障害となっているガザでの停戦を実現することで、正常化を果たそうとしている。

パレスチナの自治政府は、こうした中東情勢の変化をよんで、抵抗勢力を壊滅し、米国イスラエルの手先として生き残る道を選んだ。パレスチナは、占領が継続し、占領当局が、認める範囲での自治しか認められないことに。2国解決方式となっても、パレスチナがイスラエル

の支配に置かれたものが継続する

### 抵抗勢力

抵抗勢力が解体されたわけではない、抵抗勢力は、人々の支持を受けており、帝国主義とシオニストの支配が続く限り、抵抗は拡大していく。当初の目的であるパレスチナ問題を消滅させる流れに対して、明確にパレスチナの抵抗の意思を示した。

米国国内を含めて、イスラエルの大量虐殺を非難し、パレスチナの民族自決を支持する声が世界中に拡大し、

欧州などの諸国が動揺し、パレスチナの自決権を認める声が広がっている。イスラエルとそれを支持する米国は、国際世論から孤立することになっている。国連においても、唯一米国がイスラエルを擁護している。

問題は、ファタハを中心とする自治政府が、民族の統一を求めるハマスやその他の抵抗勢力の声に耳を貸さず、自ら延命を図ろうとしていることが、パレスチナの抵抗運動の統一をさまたげ、イスラエルにその分裂を利用されることになっている。



2025年1月15日、パレスチナ・クロニクル、ラムジー・バルード氏による初公開（パレスチナ・クロニクルによるその他の記事） | (2025年1月15日掲載)

イスラエルの国家安全保障大臣イタマル・ベン・グヴィル氏は、ベンヤミン・ネタニヤフ首相率いるイスラエル政府を「ハマスへの完全降伏」と非難し、ガザ停戦合意を「降伏協定」と呼んだ。

今回ばかりは、ベン・グヴィル氏の言う通りだ。

イスラエル軍は15か月以上にわたり、ガザで勝利を収めるためにありとあらゆる戦略を試みたが、失敗に終わった。アナリストたちは、これほど高度な殺戮技術を持つ国が、武器を自作する戦闘員集団を制圧できなかった理由、より正確には、即席の武器に頼る戦闘員集団が、米国、英国、ドイツ、イタリア、その他多くの西側諸国および非西側諸国からイスラエルに提供された武器庫全体を打ち破ることができた理由を解明しようと何年も費やすだろう。

ガザは20年近くイスラエルの封鎖下にあり、その間イスラエルは2008年に始まり、最新の猛攻撃で頂点に達した大規模な戦争をこの地域に対して開始した。しかし、この最近の戦争は単なる暴力の繰り返しではなかった。それは大量虐殺の規模であり、この地域の歴史上前例のない破壊活動だった。

イスラエルは、メディアの同盟国の助けを借りて、ガザでのパレスチナ人の勝利を敗北として仕立て上げようとするだろう。ネタニヤフ首相と過激派内閣の同盟者たちは、少数の例外を除き、おそらく失敗を軽視するか、物語を歪曲しようとするだろう。

イスラエルによるこれらのいわゆる「成果」は、戦術的な勝利とさえ言えない。それどころか、イスラエルの行動はガザの破壊を引き起こし、女性や子供を含む無数の民間人の犠牲者を出した。

イスラエルは、ガザを破壊することで抵抗勢力を根絶できると想定した。しかし、その計算は大きな間違いだった。ガザの抵抗勢力はパレスチナの人々と直接結びついている。特定の数の戦闘員を排除することではなく、人々と抵抗勢力自体との永続的な絆が重要なのだ。

この絆は壊れることなく、むしろさらに強くなった。ガザのパレスチナ人全員を殺害するなど、あからさまな大量虐殺を犯さなければ、イスラエルは抵抗勢力を根絶できなかった。イスラエルのアミハイ・エリヤフ文化遺産相など一部の政治家は、ガザへの核爆弾投下を呼びかけ、繰り返しそのような要求を行った。

結局、イスラエルは失敗したが、医学雑誌ランセットの推定によれば、何十万人ものパレスチナ人を殺害し、負傷させた。

今回は、イスラエルの失敗を単に目的を達成できなかったこととして片付けることはできない。イスラエル軍は壊滅的な損失を被った。これは、1948年のイスラエル建国以来、アラブ軍とのいかなる軍事衝突よりも大きな損失である。

これらの損失は、旧ソ連などの大国との同盟に頼らずに戦いを続ける草の根の抵抗グループによって引き起こされた。代わりに、これらのグループは独自の資源、独自の人々、独自の戦略に頼っている。

この抵抗運動の重要性は、アラブ世界に反植民地主義闘争の新たなモデルを導入し、ガザの抵抗運動、レバノンのヒズボラ、イエメンのアンサララ、そして地域全体の他のグループなど、単一の戦略で戦う非国家主体を統合したことにある。この統一されたアプローチは、イスラエルの経済を弱体化させ、その軍隊を圧倒し、最終的に

に戦場でイスラエルを打ち負かすことに成功した。

イスラエルは実際、敗北した。15か月の戦闘の後、イスラエルは抵抗運動に降伏した。この降伏は、イスラエルがガザを再占領することも、抵抗運動を破壊することも、パレスチナ人を民族浄化することも、地域の抵抗運動に対抗することも、戦争をこれ以上継続することもできないことを認めたことを反映している。

その結果、イスラエルはハマスが昨年5月に早くも受け入れ、7月にも受け入れたのと同じ停戦条件に戻ることに同意した。これは歴史的な瞬間である。

この敗北は大きな影響を及ぼすだろう。これは、パレスチナ抵抗の不屈で団結した性質を強調しています。偉大なアフリカ系アメリカ人指導者マルコムXの言葉「必要な手段を尽くして」からインスピレーションを得て、人々が闘争を続ける決意を再確認しています。



### ガザでの停戦：終わりのない闘争の中での不安定な平穩

イスラエルとの停戦のニュースを祝うパレスチナ人たちが、ガザ地区中央部のデイル・アル・バラで生中継するアルジャジーラ特派員アシュラフ・アムラーを担いでいる。2025年1月15日 [ラマダン・アベド/ロイター]

パレスチナ人として、私は尋ねずにはいられない。これは本当に平和への一歩なのか、それとも遅れた正義と長引く苦しみの物語の単なる新たな章なのか？

アフアフ・アル・ナジャーラ  
ガザ出身のパレスチナ人ジャーナリスト  
2025年1月15日

ガザでの停戦合意の発表は、間違いなく進行中の紛争の重大な瞬間を示している。遠くから目撃し、経験し、そして見守り、嘆き、そして擁護してきた私たちにとって、この戦闘の一時停止は、過去15か月を振り返り、このつかの間の平穩のために払われた大きな代償について考える機会となります。

パレスチナ人として、このニュースを受け取ったとき、混乱と破壊に囲まれた幽霊のような平穩の瞬間に、嵐の目の中に立っているように感じました。私にとって、少なくともこれは流血の終わりを意味しますが、事実、私たちが失った人々は二度と戻ってこず、これらの傷は決して癒えません。停戦によってこの事実が変わるでしょうか？

停戦は外交の勝利として称賛されることが多いが、私にとってはむしろ絶え間ない悪夢の休止のようなものだ。この最新の合意は、ガザの人々にとって、生き残ることはしばしば政治の脆弱性にかかっていることを思い出させるものだ。子供、母親、父親は不確実性の耐え難い重荷を背負っている。私は自分自身に問いかける。これは本当に平和への一歩なのか、それとも遅れた正義と長引く苦しみの物語の単なる別の章なのか？

国際社会の多大な圧力を受けて合意された停戦条件には、空爆とロケット弾の停止、ガザへの人道支援を認める条項が含まれている。これらの措置は切実に必要とされている。しかし、その必要性は、こうした措置を重要にする危機を防ぐために国際社会がもっと早く行動しなかったことへの非難でもある。援助は不可欠だが、大きく開いて血を流している抑圧の傷を癒すことはできない。一時的な平和は、自由に生きる権利や生き延びた先で夢を見る権利に取って代わることはできない。

国際司法裁判所 (ICJ)、国際刑事裁判所 (ICC)、そしてその逮捕状は、国民に対する犯罪に対処することを意図していたが、政治的無策によって影を潜めている。戦

争が終わったとき、世界はこれらのメカニズムを追求するだろうか、それとも正義は官僚主義と無関心の山に埋もれてしまうのだろうか。紛争前、紛争中、紛争後に説明責任を果たせなかったことは、これらの制度がいかに深刻な欠陥を抱えているかを示している。

援助は不可欠ですが、抑圧の傷を癒すことはできません。一時的な平和は、自由に生きる権利や生き延びた先にある夢を見る権利に取って代わることはできません。これは、もう1つの重要な疑問を引き起こします。パレスチナ人は、正義への政治的および外交的道を完全にコントロールする権利をいつか得ることができるのでしょうか。それとも、彼らは常に政治の舞台から排除され、被害者の役割に合わせるように描かれるのでしょうか。私たちの苦境に対する国際的な認識は重要ですが、私たちは信頼できない世界の大国からの独立への道筋を描かなければなりません。

パレスチナ人、特にガザの人々にとって、包囲はそれ自体が一種の戦争です。爆弾のない暴力ですが、同様に壊滅的です。現在17年目を迎えた封鎖は、生活の構造を蝕んでいます。戦争は家族から機会を奪い、基本的権利へのアクセスを否定し、人間の忍耐の限界を超える日々の闘いを強いてきた。停戦が始まったのと同じくらい早く崩壊するかもしれないことを知りながら、このような状況で私たちはどうやって生活を立て直せばいいのだろうか？現在が永遠に続く喪の状態のように感じられる中で、私たちはどうやって未来を夢見ればいいのか？

戦争中、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）への資金援助停止などの決定は人道危機を悪化させた。国連、G8、BRICSなど、さまざまな組織を含む国際社会が、パレスチナ人にとってこのような重要なライフラインを回復するために間に合うように介入できなかったことは、民間人の命を守り、人道法を遵守できなかったことをさらに浮き彫りにしている。すでに脆弱すぎるセーフティネットが、危機を緩和するのに十分な世界的な抵抗なしに恣意的に剥奪されたらどうなるだろうか？

国際社会、特に西側諸国は、パレスチナ難民の保護における自らの役割に立ち向かわなければならない。このサイクルは、停戦を支持する声明が意味のある行動、説明責任、民間人の保護、そしてこの紛争の根本原因に取り組むという真のコミットメントを伴わなければ、空虚に聞こえる。力の不均衡、占領の残酷な現実、息苦しい封鎖は、周辺的な問題ではない。問題の核心である。

この地域の平和を一貫して損なう行動をとってきた、停戦に圧力をかけた同じ米国政権（現在はバイデン、間

もなくトランプが率いる）を、どうして信頼できるだろうか。ドナルド・トランプ次期大統領の最初の政権時に、米国大使館をエルサレムに移転し、ゴラン高原をイスラエルの一部として認めるという決定をしたが、このことは正義よりも力を優先するアジェンダをはっきりと思い起こさせる。さらに、この政権が焦点をヨルダン川西岸に移し、同じ暴力と追放政策をそこに移すのではないかという懸念が残っている。このような決定は、暴力の一時停止が政策や優先事項の変更に等しいわけではないことを示している。

この瞬間を振り返ると、希望の光と怒りの波の両方を感じます。この休止が人命を救うかもしれないという希望と、この脆弱な地点に到達するまでに多くの苦しみを要したことに対する怒り。カメラはすぐに向きを変え、世界の注目は移りますが、私たちにとってこれは終わりではありません。停戦は平和ではありません。それは終わりのない嵐の中の静かな瞬間です。正義が実現されるまで、尊厳と平等が遠い夢以上のものになるまで、このサイクルは続きます。

これは、毎日命が危うい人々にとって停戦の重要性を軽視するものではありません。多くの人にとって、それは生と死の違いを意味します。しかし、パレスチナ人として、私はより深い真実を無視することはできません。平和とは、戦争がないということだけではありません。正義が存在することです。それは、恐れることなく生きる自由、破壊の確実性なしに再建する自由、制限なく夢を見る自由です。それなしには平和ではありません。それは生き残ることです。そして、生き残るだけでは、もっと多くのものに値する人々にとって十分ではありません。

アフアフ・アル・ナジャールは、ガザ地区出身のパレスチナ人学生、活動家、独立ジャーナリストです。



パレスチナ解放人民戦線の元副書記長長であり、パレスチナ革命の長い歴史の中で最も著名な軍事指導者の一人であった同志指導者アブ・アフメド・フアドが闘病の末、1月17日に逝去した。



## ハリダ・ジャラール氏を含む数十人のパレスチナ人囚人が解放された。そのほとんどは女性と子供。

PFLPの著名なパレスチナ人指導者ハリダ・ジャラール氏は、数十人のパレスチナ人女性と子供とともに解放された。(写真:動画)

2025年1月20日 ニュース

パレスチナ・クロニクルスタッフ

パレスチナ人指導者ハリダ・ジャラール氏は、解放された数十人のパレスチナ人囚人の1人。そのほとんどは女性と子供だった。

イスラエル当局は、占領下のヨルダン川西岸のラマラ西部にあるオフエル刑務所から、女性と子供を含む数十人のパレスチナ人囚人を解放した。

この解放は日曜深夜から月曜朝にかけて行われ、国際および地域の仲介者によって促進されたハマスとイスラエルの停戦合意の第一段階となった。

解放された囚人たちは、赤十字国際委員会の紋章が描かれたバスで、赤十字の車両に護衛されながら自宅へ戻った。

<https://twitter.com/i/status/1881139682542854599>

解放された囚人の中には、パレスチナ解放人民戦線の著名な指導者であるハリダ・ジャラールもおり、ラマラで家族に迎えられた。同じく解放されたジャーナリストのブシュラ・アト・タウィルは、アル・ビレの自宅に到着した。

ヨルダン川西岸の囚人に加え、イスラエルはエルサレムから数人のパレスチナ人囚人を解放し、市内の自宅へ直接釈放した。

パレスチナの人権団体は、20人の子供を含む90人の囚人がこの最初のグループの一部であることを確認した。これは、進行中の占領によって引き裂かれたパレスチナ人の家族の苦しみを和らげるための非常に必要なステップである。

<https://twitter.com/i/status/1881149636250833038>

イスラエル軍がこの地域を閉鎖された軍事地域と宣言し、囚人の家族の集まりを禁止したため、オフエル刑務所周辺の雰囲気は緊張していた。制限にもかかわらず、

数十人の親族が刑務所の近くに集まり、愛する人の帰還を心配しながら待っていたが、イスラエル軍が発射した催涙ガスに遭遇し、パレスチナ人が直面している厳しい現実を思い起こさせた。

この釈放は、日曜日の朝に発効し、第1段階で42日間続く予定のより大規模な停戦協定の一環として行われた。

<https://twitter.com/i/status/1881119353300521328>

この取引の一環として、33人のイスラエル人囚人がパレスチナ人被拘禁者と引き換えにハマスから釈放されるが、正確な数は各イスラエル人囚人の身分(軍人または民間人)によって異なる。

<https://twitter.com/i/status/1881128486733316568>

現在、イスラエルは1万400人以上のパレスチナ人囚人を刑務所に収容しており、その多くは依然として家族と離れ、厳しい状況に耐えている。一方、ハマスはイスラエルの大量虐殺によりパレスチナのコミュニティが壊滅したガザで約96人のイスラエル人囚人を収容している。

進行中の暴力により、15万7000人以上のパレスチナ人が死亡または負傷しており、その大部分は女性と子どもで、広範囲にわたる破壊の中で家族は愛する人を失った悲しみに暮れている。

(PC, AJA, ANADOLU)



今回の拘束前と拘束から解放されたジャラールさん



イスラエルの襲撃で破壊された家屋は廃墟となっている。ガザ地区南部のハン・ユニス、2025年1月16日 [ライター]

水曜日に締結された停戦協定は、ガザでの最近の大量虐殺を終わらせるかもしれないが、パレスチナ人の構造的な虐殺を止めることはできないだろう。

ムハンナド・アヤシュ

カナダ、カルガリーのマウント・ロイヤル大学の社会学教授。

2025年1月17日

ハマスとイスラエルの停戦協定は、何よりもまず、最も残忍で恐ろしい虐殺に苦しんでいるガザのパレスチナ人にとっては歓迎すべき救済である。15か月間、彼らは毎日爆撃、殺人、脅迫、投獄、飢餓、病気など、ほとんどの人にとっては想像もできない、ましてや生き延びたりすることさえ難しい苦難に耐えてきた。

この合意は少なくとも2025年1月19日日曜日まで発効しない。偶然にも、ドナルド・トランプが米国大統領に就任する前日である。合意の成功はトランプ政権のイスラエルへの圧力という独特の能力によるものだという意見もあるが、トランプは政治劇の達人であり、就任直前にイスラエルが停戦に同意することを望んでいたことは間違いない。そうすれば、それを利用して政治的資本を高めることができるからだ。言い換えれば、トランプがネタニヤフに合意を受け入れるよう圧力をかけたのは、平和と秩序を心から望んでいたからでも、合意の3つの段階すべてに心からコミットしていたからでもない。むしろ、トランプは自分の評判を高め、政権の政策を推し進めるために、個人的な政治的計算から行動した可能性が高い。

トランプ陣営とイスラエル当局の間で密室で何が話し合われ合意されたかは不明だが、トランプ政権は1967年の国境沿いに完全に主権を持つパレスチナ国家を樹立することに関心がなく、イスラエルがヨルダン川西岸の広大な地域を併合する計画に反対していないことは確か

だ。実際、一部の報道によると、トランプ政権は、イスラエルが第1段階を過ぎても従わない可能性のある停戦協定を受け入れることと引き換えに、ヨルダン川西岸の特定地域の併合に対する米国の支援をネタニヤフ首相に約束した可能性がある。そのようなシナリオでは、それが実際に実現すれば、トランプ氏は政治的勝利という望みをかなえ、ネタニヤフ氏はパレスチナの入植者による植民地化の継続という望みをかなえることになる。

この合意について悲観的な見方が広がる主な理由は、この合意では第2段階と第3段階が保証されていないため、イスラエル軍はガザ地区から完全に撤退し、避難したパレスチナ人はガザ地区のすべての地域に戻ることに許可され、ガザ地区の完全な再建が行われることになる。

15か月以上の大量虐殺により、ガザは瓦礫と化したことを指摘しておくことが重要である。ガザ地区の大部分は居住不可能となっている。人々は、完全に破壊され、水道も機能する下水道もなく、電気や燃料も利用できない建物のある地域に簡単に戻ることはできません。利用できる学校、大学、診療所、病院はなく、経営できる企業などありません。経済システムは崩壊し、人々は基本的な生存のために完全に外国からの援助に依存しています。病気が蔓延し、イスラエルの爆弾による毒素など、多くのサイレントキラーがガザの大気、土壌、水に循環しています。家族は完全に殺され、イスラエルの無差別攻撃によって引き裂かれた家族もあり、多くの子供が孤児になっています。多くの人々が衰弱し、家族を養うことができなくなりました。このすべての破壊の後、パレスチナ人が「普通の」生活をどのように送れるようになるのかは明らかではありません。

ガザ地区の統治に関する疑問も、いまだに曖昧であり、合意には根本的な問題に対処するものや長期的な解決策につながるものは何もないことは確かです。長期的な解

決策の問題は極めて重要である。最良のシナリオでは、この合意によってこの特定の大量虐殺作戦は終了するかもしれないが、問題の核心であるイスラエルによるパレスチナ人に対する構造的な大量虐殺については何も語られていない。

パレスチナ人が現在進行中のナクバと呼ぶパレスチナ人に対する構造的な大量虐殺は、1948年のナクバやガザに対するこの大量虐殺攻撃のような1つまたは2つの特定の大量虐殺事件を指すのではなく、パレスチナ人の主権を排除し、パレスチナ人の帰還権を終わらせようとする入植者植民地構造の大量虐殺を指す。パレスチナの土地を占領し、さらに多くの土地からパレスチナ人を追い出し、川から海までイスラエルとユダヤ人の独占的な主権を主張する。この大量虐殺の構造は、さまざまな排除と追放の方法を通じて機能している。

ガザで世界が目撃し、今も目撃しているような大量虐殺作戦は、物理的な大量虐殺、大量追放、土地を居住不可能にする大量破壊を伴うが、明らかにその手段の1つだが、それだけではない。段階的な避難と追放、経済発展の阻止と経済的依存の創出、パレスチナの歴史と文化の抹消、パレスチナ人の分断、占領下で暮らす人々の権利、自由、尊厳の否定により立ち去るよう圧力をかけること、パレスチナの主権に対する政治的妨害などもある。

したがって、本当の問題は次のようになります。停戦は、たとえ3つの段階をすべて経たとしても、この構造的ジェノサイドを終わらせることができるのでしょうか。答えは明らかにノーです。なぜなら、イスラエルの構造的ジェノサイドの他の手段は、停戦協定では取り上げられていないからです。

この構造的ジェノサイドは、継続的に名指しされ、暴露され、反対されなければなりません。イスラエルの入植者植民地計画が外交や公の議論で隠蔽されたり軽視されたりする限り、中核的な問題は衰えることなく続き、この停戦協定によって大きな猶予が得られたとしても、私たちは絶対的な恐怖と表現できない苦しみのこの瞬間に戻るようになります。イスラエル国家に対する深刻で持続的な圧力がなければ、イスラエルの入植者植民地主義が解体されるまで世界中の国家や機関がイスラエル国家を経済的および政治的に孤立させなければ、私たちは永続的なジェノサイドの構造に陥り、最終的にはさらに大規模な絶滅戦争で解放される圧力鍋に陥ることになるでしょう。国際社会にとって、今は祝ったり自画自賛したりする時ではなく、むしろ、あらゆる形で続くパレスチナ人への大量虐殺を止めるために、イスラエルに対して真剣な政治的、経済的行動を取る時です。

ムハンナド・アヤシュ

カナダ、カルガリーのマウント・ロイヤル大学の社会学教授。

ムハンナド・アヤシュは、「暴力の解釈学」(UTP、2019年)の著者であり、パレスチナ政策ネットワークであるアル・シャバカの政策アナリストです。彼はアルクドスのシルワンで生まれ育ち、その後カナダに移住し、現在はマウント・ロイヤル大学で社会学の教授を務めています。現在は入植者の植民地主権に関する本を執筆中です。

## UAWC 寄付するには

IBAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur、Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociacion Para La Cooperacion Y Desarrollo De Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡



## アハリー病院に支援を

アハリー・アラフ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田 2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam\_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラフ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525



イスラエルとガザの国境付近でドローンが空を飛んでいる。イスラエル南部から見たところ、2023年12月15日。ロイター/クロダ・キルコイン



## 静かでドローンのないガザを夢見る

停戦は宣言されたが、空からの苦痛は止まっていない。

ファトマ・アル・ザフラ・セワイル

ガザ出身の作家

2025年1月21日

停戦が発効して以来、ガザの空は変わった。異常な静けさだ。イスラエルの戦闘機やヘリコプターの音はもう聞こえない。クワッドコプターも消えたが、ドローン、いわゆる「ザナナ」は残っている。

イスラエルのドローンのブンブンという音は紛れもなく聞こえる。イスラエルが私たちを実験台にしてドローン技術を開発する間、それはガザで私たちの長年の付き添いだった。

大量虐殺の間、ドローンの接近とブンブンという音は強まり、明確なメッセージを伝えていた。ドローンはガザの住民の魂を欲しがっていたのだ。15か月の間、これらの空飛ぶ機械は私たちがどこへ行き、何をし、誰が生き、誰が死んだかをコントロールしていた。占領軍がガザの生きとし生けるものすべてに監視カメラを設置したかのようなのだ。ガザの空では、ドローンの数が鳥の数を上回っているように感じられた。

15か月間、昼夜を問わずブンブンという音が止むことはなかった。それはガザの若者から老人まで、人々の頭の中にしみ込み、彼らを苦しめた。それは私たちの正気と、戦争がいつか終わるといふ楽観主義をむさぼり食った。

空に群がるドローンの中では、最も単純な活動でさえ困難だった。食事を作っていると、音が暗い背景を作り出し、集中力を乱す。冷静さを失い、わずかな食べ物を燃やしてしまう。

ドローンは神経をすり減らし、自分や家族の他のメンバーをいらだたせ、緊張を引き起こし、口論をエスカレートさせる。

私たちが滞在したキャンプで、年配の女性がかつて私にこう言った。「ドローンが私の心をむさぼり食っている」。彼女は、絶え間ないブンブンという音を慢性的で

治らない頭痛のように思っていた。夜になると悪化し、脳を突き刺して眠れなくなる。眠ってしまうと、爆撃や破壊の悪夢を見ることになる。

ドローンは、ブンブンという音や監視だけでなく、恣意的な大量殺戮でも恐怖をあおる。暗くなってから外に出ると、標的になる危険がある。だから、日暮れの直前に、パレスチナ人は急いでテントに戻り、避難する。普段は外で遊ぶ子どもたちも、そのまま留守番をする。

夜、トイレに行きたくなったら、2つの選択肢がある。おもらしするか、命を危険にさらして用を足すかだ。膀胱を押さえて我慢しようとする、パニックと恐怖が頭を支配してしまう。

夜はバケツで用を足し、朝に空にしている家族を何組か知っている。

避難キャンプでは、入浴も危険なこととなった。夕方近くに火をつけて水を温めるという危険を冒すわけにはいかない。ドローンを引き寄せる可能性があるからだ。だから日中に急いで水を体につけ、できるだけ早く石鹸を洗い流すという手順を踏まなければならない。想像を巡らせながら。ドローンが発砲したらどうなるか？裸で死ぬ可能性は耐えられないので、急いで服を着る。

ジェノサイドにより、これらのドローンに新しい機能が導入された。それは、避難しているパレスチナ人をだまして外に出させるというものだ。

眠れない夜、空腹の猫の鳴き声を聞いたと想像してほしい。人間らしい思いやりに駆られて、猫に何か食べ物を与えに外に出る。自分も空腹だが、心の底では「なんとかできるが、猫は自分で食べ物を見つけられない」と自分に言い聞かせる。外に出て猫に食べ物を投げようとした瞬間、突然銃声が鳴り、思いやりのある行動は終わる。

ドローンやクワッドコプターは、泣いている赤ちゃん

## オリブの会通信 第50号(通巻56号)

んや助けを求めて叫ぶ子どもなど、さまざまな録音された音を使って被害者をだましていた。彼らは、戦争の耐え難い苦しみにも関わらず耐えてきたパレスチナ人の思いやりと連帯感を食い物にした。

私たちはドローンに苦しめられることに慣れきっていたので、まれにドローンの音が止むと、何かおかしいと感じた。

同僚のウィッサルは、ある夜、ドローンの音が聞こえないことに気づいたと話してくれた。彼女は恐怖に襲われた。彼女は家族を起こして、荷物をまとめるよう促した。彼女は、ドローンが静かになったある夜、ラファで何が起こったかを思い出した。恐ろしい攻撃が開始され、近隣地域が壊滅したのだ。彼女の家族はなんとか逃げることができた。

ウィッサルは正しかった。ドローンの沈黙は、再び差し迫った攻撃の兆候であることが判明した。イスラエル軍が彼女と家族が避難していた「安全地帯」を爆撃し始めたとき、彼らは再び命からがら逃げた。

今日、停戦が発効したため、イスラエルの攻撃で殺さ

れるという差し迫った危険は一時的に消えたかもしれないが、ドローンによる監視とブンブンという音は続いている。ドローンは私たちから安全と自立の感覚を奪い続けている。

ドローンのない空への見通しは遠い夢のままであり、正義、自決、平和を求めるより広範な闘争と本質的に結びついている。占領が本当に終結して初めて、この負担のない空というビジョンが本当に現実になることができるのだ。そうなるまで、ドローンは私たちの心を食い尽くし続けるでしょう。

この記事で述べられている見解は著者自身のものであり、必ずしもアルジャジーラの編集方針を反映するものではありません。

ファトマ・アル・ザフラ・セワイル

ガザ出身の作家

ファトマ・アル・ザフラ・セワイルは文化ジャーナリスト、研究者、作家です。彼女はガザ出身のストーリーテラーとスピーチのトレーナーでもあります。

# パレスチナ日誌

## パレスチナ日誌 12月

### 12月1日パレスチナ戦争 422日

- ・ガザ地区北部のタル・アル・ザタールの住宅ビル爆破で40人が殉教
- ・ガザ地区の囚人2人が占領軍刑務所で殉教した。
- ・4人の市民を逮捕-サルフィットで入植者が財産を襲撃
- ・UNRWA、ケレム・シャローム交差点経由のガザへの援助物資の配送停止
- ・ガザで1日に47人の殉教者
- ・シリア軍、ハマ北部の町や村の支配権を回復
- ・UNRWA：ガザの避難民415,000人以上が私たちの学校に避難している
- ・入植者がアル・アクサを襲撃、礼拝を行う
- ・ジェニン空爆で2人の殉教者
- ・アル=フーシ：イスラエル中部の標的を極超音速ミサイルで攻撃

### 12月2日パレスチナ戦争 423日

- ・占領軍、サルフィット北西部で市民宅を襲撃し数十人を拘束
- ・数百人の入植者がアル・アクサと西の壁を襲撃
- ・占領軍は24時間以内に4件の虐殺を行い、37人の殉教者を殺害した。
- ・停戦が始まって以来初めて...イスラエル軍 ヒズボラ、シェバア農場に向けてロケット弾2発を発射

### 12月3日パレスチナ戦争 424日

- ・レバノン南部ヤルーン郊外でのイスラエル軍の襲撃
- ・空爆に備えて 占領軍はカン・ユニスの人々に居住地を離れるよう要求
- ・イスラエル軍：紅海でのドローン迎撃を発表
- ・イスラエル軍はフィラデルフィア回廊を拡張し、ガザ内の「緩衝地帯」の完成に近づいている。
- ・北部の殉教者と行方不明者、60日間で3700人以上
- ・レバノン：ハリスの町を狙った空襲で6人が殉教
- ・ガザ地区への空襲による殉教者は35人に上った。
- ・カマル・アドワン病院院長 状況は壊滅的であり、人命救助のための緊急の国際的行動を求める
- ・3件の虐殺...過去24時間にガザで32人の殉教者

- ・占領軍、サルフィット北西部で市民宅を襲撃し数十人を拘束

### 12月3日パレスチナ戦争 424日

- ・レバノン南部ヤルーン郊外でのイスラエル軍の襲撃
- ・空爆に備えて 占領軍はカン・ユニスの人々に居住地を離れるよう要求している。
- ・イスラエル軍：紅海でのドローン迎撃を発表
- ・北部の殉教者と行方不明者、60日間で3700人以上
- ・レバノン：ハリスの町を狙った空襲で6人が殉教者たち
- ・ガザ地区への空襲による殉教者は35人に上った。

### 12月4日

- ・占領軍がベイトラヒアの避難民を保護する学校を包囲
- ・イスラエル軍の砲撃でカマル・アドワン病院の医療スタッフ3人が負傷
- ・国連総会、パレスチナに関する2つの決議を採択
- ・占領軍大臣が入植者に対する最初の行政命令を取り消す
- ・サルフィット州、11月の違反件数321件を記録
- ・アル=カッサム、ジャバリアキャンプで兵士2人を狙撃し、装甲兵員輸送車を標的にしたと発表
- ・ガザ地区への再攻撃で殉教者と負傷者、ベイトラヒアでは新たな避難民が発生

### 12月5日戦争 426日

- ・カン・ユニスのマワシでの虐殺...20人の殉教者、
- ・ベイトラヒア、シュジャイヤ、ラファへの空襲が再開され、多数の殉教者と負傷者が出た。
- ・レバノンでの停戦合意に対するイスラエルの違反129件
- ・殉教者2名と負傷者 - イスラエルのドローンがカマル・アドワン病院に爆弾を投下

### 12月6日戦争 427日

- ・数十人の殉教者と戦車がカマル・アドワン病院を包囲
- ・レバノンの大臣 イスラエルの空爆、シリアとレバノンの交差点2カ所を標的に
- ・占領軍はガザ地区北部のカマル・アドワン病院を襲撃した。

- ・イスラエル占領軍、シリア領ゴランで兵力を増強
- ・シリア反体制派がヨルダンとの国境を制圧
- ・ドイツ政府、イスラエルによるガザでの大量虐殺に関するアムネスティの報告書を拒否
- ・占領軍、ラマツラ北部でジャーナリスト3人を逮捕

## 12月7日パレスチナ戦争 428日

- ・新たな大虐殺... アル・ヌセイラート・キャンプのアル・ナディー家の家を標的に18人が殉教
- ・イスラエルがシリアの化学兵器備蓄を爆撃
- ・ガザ地区中央部のネツァリム地区で、レジスタンスが占領軍の集会や車両を砲撃した。
- ・イスラエル空軍、イエメンから発射されたミサイルを撃墜
- ・グテーレス：ガザの大惨事は人間性の完全な崩壊を意味する
- ・シリア反体制派、イスラエル国境近くのクネイトラ市支配を発表
- ・ガザ：1日で52人の殉教者、開戦以来44,664人
- ・占領軍、ガザから囚人30人を釈放
- ・ベイト・エル入植地襲撃の疑いで4人の若者を逮捕
- ・シリア反体制派、ダマスカス方面への前進と政権軍後方のホムス市内での「質的作戦」実施を発表

## 12月8日戦争の429日：

- ・シリア反体制派が「バッシュール・アル=アサド打倒」を宣言
- ・数十人の殉教者とハン・ユニスとデイル・アル・バラの避難民テントへの砲撃
- ・占領軍：第98師団、落下傘部隊、コマンド旅団をシリアとの国境に招集せよ
- ・タス通信：アサド大統領がダマスカスを離れた
- ・シリア首相 人民が選んだいかなる指導者とも協力する用意がある
- ・イスラエル大臣、シリアのヘルモン山占領を呼びかけ
- ・シリア 毎年12月8日を国民の祝日とすること
- ・ガザで新たな虐殺が発生、24時間で44人が殉教者
- ・エジプト 我々はシリアの統一と安定回復を支持する
- ・イスラエル軍、政権軍撤退後のヘルモン山を掌握
- ・イスラエルがダマスカスの科学研究センターを爆撃
- ・イスラエルがシリアのヘルモン山の占領を決定
- ・アーメッド・アル=シャラー、ウマイヤド・モスクに到着
- ・イラン 自国の運命を選ぶのはシリア国民だ
- ・大統領府 我々はシリアとその国民、そして国土とともに立ち、シリアの統一と安定の重要性を強調する
- ・占領軍はシリア南部の町の住民に家から出ないよう要請

## 12月9日パレスチナ戦争 430日

- ・バイデン：わが軍はシリアにとどまり、イスラエルがそこで活動できるように支援する
- ・ホワイトハウス シリアの化学兵器廃棄が最優先課題だ
- ・イスラエル 政権崩壊後、シリアで100回の空爆と数十回の攻撃を行った
- ・シリア情勢を討議する安保理緊急会合
- ・占領軍大臣がシリア緩衝地帯の管理完了を指示
- ・イスラエル、シリアの100カ所を標的に
- ・レバノン南部でイスラエル兵4人が死亡
- ・エルサレム 占領自治体、イッサウィヤの町で取り壊し命令を配布
- ・ガザ北部ジャバリアの難事件でイスラエル兵5人が死亡
- ・一日で50人の殉教者 - ガザ地区への新たな空襲で殉教者と負傷者
- ・占領軍によるトゥバス市への空爆による2人の殉教者
- ・アル=フーシ派、無人機でヤッファ南方の「敏感な標的」を攻撃したと発表

## 12月10日戦争の431日：

- ・公式発表 ジャバリアキャンプでの戦闘でイスラエル兵3人が死亡、12人が負傷
- ・イスラエルがシリアで250の標的を攻撃、地上制圧を拡大

- ・国連、イスラエルにゴラン緩衝地帯からの撤退を要請
- ・数十人の殉教者とベイト・ハヌーンでの虐殺
- ・イスラエル軍、ダマスカスから25キロのシリア深部に侵入
- ・土地の所有権を口実に一入植者たちがシルワンのガイスタの建物を押収
- ・占領軍機がガザ地区への空襲を再開、デイル・アル・バラで漁師6人を逮捕
- ・ガザ地区での戦争により、4,000人以上が手足を切断
- ・アル=バシルが率いるシリア暫定政府が政権を引き継ぐ
- ・UNRWA ガザの苦しみは人権への信頼を揺るがした
- ・フーシ派がヤッファとアシュケロンにイスラエル標的、米艦船3隻と米駆逐艦2隻を標的にすると発表

## 12月11日戦争の432日

- ・イスラエル人負傷者 - ブネイブラクで車突入テロを起こした疑いで若い男を逮捕
- ・ベイトラヒアとヌセイラートで数十人の殉教者
- ・ハーレツ 開戦以来、シン・ベトの調査で4人の捕虜が殺された
- ・3つの虐殺で19人の殉教者... 侵略の犠牲者は44,805人に上る
- ・アル=ジュラニ：この国は再び戦争に突入する準備ができていない
- ・ネタニヤフ首相の汚職裁判は2日目も続く
- ・200人の漁師が死亡、ガザの漁業部門に2000万ドル以上の損失
- ・イスラエル 350台以上の人道援助トラックがガザ地区に入る
- ・ガザ地区への新たな空襲で殉教者と負傷者が出る
- ・ガラン 人質取引はサウジとの和平への序曲となる

## 12月12日戦争の433日：

- ・総会、UNRWA とガザ停戦を支持する2つの決議を賛成多数で採択
- ・数十人の殉教者と援助活動家の標的
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民40人を逮捕
- ・ハマスが2つの主要な要求に合意... 数週間以内の第一段階とトランプ大統領就任式前の最終合意
- ・ガザの保健省：3つの虐殺により、1日で30人の殉教者が命を奪われた
- ・ネタニヤフ首相からサリバン大統領補佐官へ：占領軍はシリアの緩衝地帯にとどまる
- ・シリア... 憲法と議会を3カ月間凍結

## 12月13日434日間の戦争

- ・クネセト、被拘禁者の弁護士費用を清算金収入から控除することを承認
- ・アル=フーシ：われわれは、アメリカ、イスラエル、そしてわれわれを標的にするいかなるものとも戦う用意がある
- ・20年の服役の後 - アメリカはハレド・メシャールの弟を釈放
- ・ヌセイラートの虐殺 33人の殉教者、84人の負傷者と行方不明者、
- ・ガザ地区における434日間の戦争 - 数十人の殉教者
- ・サウジアラビア、ガザ地区の停戦とUNRWAへの支援を要請
- ・占領 この1週間で、ヨルダン川西岸で約50人のパレスチナ人を逮捕し、爆発物を破壊した
- ・シリアのメディア イスラエル軍、ダラア地方で村の長老と面会し住民に警告
- ・レバノン軍は中部と西部に配備を進めている
- ・イスラエル人囚人の家族がエルサレムでデモ
- ・プリンケン、ガザ停戦についてエルドアン、フィダンと協議
- ・ガザ -24時間で3件の虐殺
- ・アサド政権崩壊を祝うシリアの100万人デモ
- ・UNRWA：ガザでの私たちの活動の停止は、パレスチナ人から帰還の権利を剥奪することを目的としている
- ・OIG、ガザ地区で続くイスラエルの虐殺と戦争犯罪を非難
- ・フーシ イスラエルの標的に対し、ドローンを使った軍事作戦を3回実施した
- ・サイレン - イスラエル軍、ガザから発射された2発のロケット弾の迎撃を発表

## 12月14日435日間のパレスチナ戦争

## オリーブの会通信 第50号(通巻56号)

- ・オランダ裁判所、イスラエルへの武器輸出停止要求を却下
- ・レジスタンスがアシュケロンと “ガザ包囲網” の入植地にロケット弾を浴びせる
- ・ジェニンでパレスチナ治安部隊に銃撃された市民が死亡
- ・民族イニシアチブ：内紛は占領軍の利益にしかならない
- ・1日で55人の殉教者 - イスラエルの空襲は避難民センター、市民、デイル・アル・バラの自治体を標的にした
- ・民族評議会 国家プロジェクトを守るためには、内部の結束が急務である
- ・ナウム・カセム ヒズボラは強く、傷から回復した
- ・ロケット弾発射後 イスラエル軍ハン・ユニス東部の近隣住民に避難命令
- ・ジャーナリストのモハメド・クレナウィとその家族が、アル・ブレイジに対するイスラエルの攻撃で殺害された。
- ・世界中の都市や首都で、ガザ地区への侵略を非難するデモが行われた。

### 12月15日 436日間のパレスチナ戦争

- ・占領軍によるガザ地区中心部への空襲で9人が殉教
- ・レジスタンスは、ガザ市周辺の占領軍陣地と兵士を標的にした。
- ・5時間以内に... 60回以上のイスラエルによるシリア攻撃
- ・アル=カッサム旅団、ジャバリアでイスラエル兵狙撃を発表
- ・UNRWA 学校のエルサレム人生徒を脅かす危険
- ・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民7人を逮捕
- ・ガザで1日に46人、開戦以来44,976人の殉教者
- ・イスラエル軍、ヨルダン川西岸に自動発砲システムの配備を準備
- ・報告書 イスラエルがシリアの防空システムを破壊
- ・この1週間で1,316台の援助トラックがガザ地区に入った
- ・占領政府、ゴランにおける入植者増加計画を承認
- ・占領軍がクネイトラ地方で占領を拡大
- ・アル=アクサ殉教者旅団 パレスチナの治安と人民の能力を標的にしたいかなる試みも拒否する
- ・サウジアラビア、占領政府のゴランにおける入植地拡大を非難

### 12月16日 437日間のパレスチナ戦争

- ・トランプからネタニヤフ首相へ：イランとは取引するが、ヨルダン川西岸地区の併合には興味がない
- ・イスラエルがタルトゥースの軍事施設を爆撃
- ・ガザで1日に52人の殉教者
- ・ロシアが警告 イスラエルのゴラン高原併合は「容認できない一歩だ
- ・占領軍がイエメンからのミサイルを迎撃
- ・エルサレム民衆国民会議 アナタとシルワンの家屋取り壊しは、エルサレム住民を追い出すイスラエルの計画の一部である
- ・占領軍、アド・ダヒリヤ近郊で70軒以上の商店と家屋を取り壊し、大虐殺を行う

### 12月17日 438日間のパレスチナ戦争

- ・ガザの2軒の家屋を狙った占領軍の爆撃で5人の殉教者と多数の負傷者
- ・連合の緊張 ベン・グビール、2025年予算に反対票
- ・米軍 イエメンのフーシ派を空爆した
- ・12,799人の学生が殉教し、490の学校と大学が爆撃された。
- ・イスラエル人のガザ入国禁止を解除するクネセットの法案
- ・ノルウェー、2026年W杯予選でのイスラエル戦を拒否
- ・レバノン：イスラエル軍は家屋の爆破を続け避難民の帰還を妨げている
- ・ガザで1日に31人の殉教者、開戦以来45,059人
- ・MSF：アル・マワシに閉じ込められた12人のチームメンバーとその家族
- ・治安部隊、ジェニンでの軍事作戦の継続を確認
- ・カマル・アドワン病院 占領は水タンクを標的にし、私たちは “ 暗黒の日々 ” を送っている
- ・国連、パレスチナ人の自決権に関する決議を採択
- ・占領軍によるガザ地区北部の住宅爆撃で8人が殉職

### 12月18日戦争の439日

- ・占領軍のアル・マワシの避難民テント爆撃で殉教者と5人の負傷者
- ・レジスタンスがイスラエル軍の家屋を爆破。兵士11人が死傷
- ・イスラエル、航空機やミサイルを迎撃する新レーザーシステムを発表

- ・入植者のバスがナブルスを襲撃、抵抗軍は銃撃で応戦
- ・数十人の殉教者... テントが標的となり、カマル・アドワン病院で火災が発生
- ・ネタニヤフ首相がイスラエル軍に指示：2025年末までシリアに留まる準備をせよ
- ・スモトリッチ、ハマスとの囚人取引に反対
- ・アラブ研究協会を襲撃し理事を逮捕
- ・レポート イスラエルがクネイトラ州の95%を掌握
- ・アル・カッサム 我々は “ ネットアリム ” 軸の占領軍指揮統制施設を標的とした
- ・ガザ地区への再攻撃で殉教者と負傷者
- ・サルフィット東部の入植地拡張のため数百ドノムがブルドーザーで破壊される

### 12月19日パレスチナ戦争440日

- ・イスラエル軍将校、軍の犯罪を語る：「ネットアリム軸は殺戮地帯であり、遺体は犬のために置いていく」。
- ・人権事務所 イスラエルはヨルダン川西岸地区におけるパレスチナ人家屋の取り壊しを中止せよ
- ・イエメンからイスラエルに向けてミサイル発射
- ・2つの攻撃で14機が破壊された... イスラエルのイエメン侵略とフーシの脅威
- ・トルコ SDF との停戦合意なし
- ・動画：トゥルカラムキャンプでの占領軍による車両爆破で4人の殉教者と負傷者
- ・アル・カッサム 我々の戦闘員の1人がゼロ地点からイスラエル軍将校と兵士3人を刺した
- ・占領軍はガザで4件の虐殺を行い、32人の殉教者を出した。
- ・イスラエル、テルアビブ沖の航空標的の迎撃を発表
- ・100回の空爆と800人の殉教者... ヨルダン川西岸での作戦の減少と広範な逮捕者
- ・イスラエル フーシ派への攻撃で飛行機が60発の爆弾を投下

### 12月20日

- ・天然資源に対するパレスチナ人の永続的な主権を確認する決議の採択
- ・エリコの西、アル・マハラジャに新たな入植拠点
- ・ガザの保健省：占領軍は3つの虐殺を行い、77人の殉教者と174人の負傷者を出した。
- ・ネタニヤフ首相、ポーランドでの祝賀行事を欠席... 逮捕を恐れて
- ・本日未明からの占領軍によるガザ地区空襲で21人が殉教
- ・ジャバリアの占領軍爆撃で12人の殉教者、そのほとんどが子どもたち

### 12月21日パレスチナ戦争442日

- ・安保理、ゴランの平和維持部隊の任務を半年延長
  - ・イスラエル、シリア南部の2つの村を追加占領
  - ・イエメンから発射されたミサイルでイスラエル人16人が負傷
  - ・アブ・サフィヤ カマル・アドワン病院は軍事標的のように常に脅かされている
  - ・占領軍はウナム・アル・カイル村を軍事地帯に変え、入植者たちはヘブロン以南で市民を攻撃した。
  - ・ガザで1日に21人の殉教者、開戦以来45,227人
  - ・ガザ地区北部に数千の食料小包が届けられる
  - ・「サラヤ・アルクツズ」「ネットアリム」軸をミサイルで攻撃すると発表
  - ・カイロでパレスチナの諸派が三者会談、戦争の行方について協議
  - ・イスラエル占領軍は、クネイトラの北にある戦略的なクルス・アル・ナフルの丘に軍事拠点を設置した。
  - ・アル・カッサムがジャバリアキャンプでの質的作戦を発表
  - ・ローマ教皇 イスラエルによるガザ空襲は戦争ではなく不正義である
  - ・ガザ保健省、10月7日以来1000人の医師と看護師の殉教を発表
- ### 12月22日戦争の443日
- ・米軍、サヌアの軍事施設を爆撃
  - ・イスラエル - 拘束者の釈放を求め、数千人が抗議行動

- ・ 占領軍がダマスカスを見下ろす「緩衝地帯」にポイントを設置
- ・ 占領軍のデイル・アル・バラの民家爆撃で5人の殉教者と多数の負傷者
- ・ 数十人の殉教者と占領軍がカマル・アドワン病院を攻撃
- ・ イスラエルはレバノン南部で家屋や果樹園の取り壊しとブルドーザーによる破壊を続けている。
- ・ 戦争以来 エルサレム県における423件の取り壊しとブルドーザー作業
- ・ カッサム、ペイト・ハヌーン西方でイスラエル軍のタンカーを狙う
- ・ イスラエル、ベツレヘムの東に入植地5カ所を新設
- ・ 入植者、ヨルダン渓谷北部に新たな前哨基地を設置

## 12月23日パレスチナ戦争 444日

- ・ 学校閉鎖 - 占領軍、アル=ファウルキャンプの若者70人以上を拘束
- ・ 占領軍、ベツレヘムの市民32人を逮捕
- ・ ガザ北部で75日間に配給された援助物資はわずか12台のトラックのみ
- ・ ネタニヤフ首相、汚職容疑で5度目の出廷
- ・ アル・カッサム 我々はペイトラヒアでイスラエル軍を殺害し、その武器を押収した
- ・ 占領軍、ガザ救援活動中のヨルダン人医師を逮捕
- ・ ヘブライ語チャンネル イスラエルはフィラデルフィア回廊からの撤退に同意しなかったし、今後も同意しないだろう
- ・ ガザでは1日で58人が殉教し、開戦以来45,317人が殉教した。
- ・ イスラエル空軍、イエメンから飛来した無人機を迎撃

## 12月24日戦争 445日 :

- ・ イスラエル軍、ガザ北部の戦闘で将校と兵士2人の殺害を発表
- ・ イスラエル軍の爆撃でカマル・アドワン病院で約20人が負傷
- ・ イスラエル人20人が負傷 - イエメンからのミサイルでテルアビブでサイレンが鳴り響く
- ・ イスラエル、非常事態をさらに1年延長
- ・ 数十人の殉教者と援助保護委員会の標的化
- ・ 侵略開始以来、12,820人の学生が殉教し、20,702人が負傷した。
- ・ 治安部隊 ジェニンでの作戦は継続、武装勢力との交渉も撤退もない
- ・ アブ・サフィヤ カマル・アドワン病院とその周辺の大規模破壊
- ・ フーシ ヤッファ地区のイスラエル軍事目標を弾道ミサイルで攻撃した
- ・ ガザ イスラエルは援助物資の窃盗を全面的に支援し、治安要員を殺害
- ・ イスラエル、イエメン問題で安保理の緊急会合を要請
- ・ 占領軍がガザ市北部の市民グループを爆撃し、殉教者と負傷者が出た。

## 12月25日戦争の446日

- ・ イスラエル、アロー・ミサイル購入のため20億NISに署名
- ・ ペイト・ハヌーンの家を狙った占領軍の爆撃で3人が殉教、負傷者
- ・ アルクッズ旅団、占領軍とガザ包囲網をミサイルで砲撃
- ・ テントや家屋への爆撃で数十人の殉教者
- ・ イスラエル中部へのイエメンのミサイルにより、300万人のイスラエル国民がシェルターに避難
- ・ 停戦後初めて：イスラエルがレバノン奥深くに空爆
- ・ ガザの公共事業：住宅部門の70%が占領によって破壊された。
- ・ クネセト、パレスチナの国家化努力を抑制する法案を審議

## 12月26日447日間の戦争・

- ・ イエメンから飛来したドローンがアシュケロンに落下
- ・ アル・カッサム 我々はジャバリアキャンプ西のイスラエル機を標的に
- ・ ... ジャーナリストや避難民を狙った空襲で数十人の殉教者
- ・ ジャーナリスト5人が殉教、殉教者201人に
- ・ 軍は60日以上レバノンに留まる - イスラエル軍がワディ・アル・フジャイル道路を前進
- ・ イスラエル軍がガザ市と北部を集中空襲、ヌセイラトで漁師が死亡

## 12月27日ガザ地区における448日間の戦争

- ・ 囚人クラブ：占領下にある88人の女性被拘禁者は困難な状況に置かれている
- ・ ガザ地区北部の戦闘でイスラエル軍将校が死亡、2人が負傷
- ・ イエメンからのミサイルでイスラエル人18人が負傷
- ・ 数十人の殉教者 カマル・アドワン病院、再び包囲される ガザへの空襲

- ・ ヘルツリーヤ 刺傷事件でイスラエル人女性が死亡、犯人は重傷
- ・ レバノン：占領軍がベカー県クサヤを3回襲撃
- ・ アル・カッサム旅団、ジャバリアのイスラエル軍爆撃の責任を主張
- ・ カマル・アドワン病院の医療スタッフ、患者、ジャーナリストとの通信が遮断される
- ・ フーシ派がベン・グリオン空港を弾道ミサイルで攻撃すると発表
- ・ ガザの保健省： 占領軍は3つの虐殺を行い、37人の殉教者と98人の負傷者を出した カマル・アドワン病院全焼
- ・ イスラエルメディア ガザ地区北部からロケット弾が発射された。
- ・ 占領軍がガザ市街地を空爆した結果、12人が殉教した。

## 12月28日パレスチナ戦争 449日

- ・ イスラエル、米国のTHAAD防空システムを初稼働
- ・ シリア ダマスカス新知事、イスラエルとの和平を否定
- ・ イスラエル軍はガザで大規模な空爆作戦を実施。
- ・ イスラエルがイエメンからのミサイルを迎撃
- ・ 占領軍、カマル・アドワン病院“アブ・サフィア”院長を逮捕
- ・ 女性も... 占領軍がヨルダン川西岸地区の市民15人を逮捕
- ・ ガザでは1日に48人が殉教し、開戦以来45,484人が殉教した。
- ・ フーシ派、弾道ミサイルでイスラエル軍基地を攻撃と発表
- ・ フーシ派 米英の攻撃目標はイエメンのブハイス地域
- ・ ガザ地区北部で10人の殉教者。ハン・ユニスとガザの避難民を保護するテントに対する占領軍の爆撃で4人が殉教した。
- ・ 250人以上が逮捕。占領軍がカマル・アドワン病院での作戦完了を発表
- ・ 警察と衝突... イスラエルでガザの囚人の釈放を求める大規模デモ

## 12月29日パレスチナ戦争 450日

- ・ 世界の首都や都市で、ガザ侵攻の停止を求めるデモを行う。
- ・ ジェニンの事件でジャーナリストが撃たれて死亡した。
- ・ イスラエル、ジェニン作戦を支援する武器供与を拒否
- ・ 祈りと祝典 - 数百人の入植者がハヌカにアル・アクサを襲撃
- ・ ガザで1日に30人の殉教者、開戦以来45,514人
- ・ イスラエル軍 ガザから発射された5発のロケット弾を探知
- ・ アル=カッサム旅団、ジャバリアの東でメルカバ戦車と救援部隊を標的にしたと発表
- ・ イスラエル軍 カマル・アドワン病院の再開は認めない
- ・ UNIFIL イスラエル軍にレバノン南部での移動の自由を保障するよう要請

## 12月30日パレスチナ戦争 451日

- ・ 何百ものテントが浸水... 200万人の避難民がガザで悲惨な状況に暮らす
- ・ ガザで2例のポリオが報告される
- ・ ガザで1日に27人の殉教者
- ・ 24時間以内に、ガザ地区の囚人5人が占領軍刑務所で殉教した。
- ・ 所有権が証明されなければ、エルサレムのいかなる土地も「不在者財産」に変えるというイスラエルの決定
- ・ アル・カッサム ジャバリアの複合作戦で兵士5人を排除した
- ・ ガザ地区北部の砲弾爆発でイスラエル兵6人が負傷
- ・ イスラエル軍、ジャバリア作戦で武装勢力70人を殺害したと発表
- ・ ガザ北部の戦闘で入植者部隊の兵士1人が死亡、7人が負傷

## 12月31日パレスチナ戦争 452日

- ・ 民族・イスラム勢力は民族統合の重要性を強調し占領の犯罪を非難する
- ・ イスラエル軍は、ガザ地区北部と中央部から3発のロケット弾が発射されたと発表した。
- ・ イスラエル中央部にイエメンのミサイル
- ・ 侵略が始まって以来、12,943人の学生が殉教し、490の学校や大学が爆撃された。
- ・ フーシ派がさらなる脅威... ヤッファとエルサレムに新型ミサイル発射
- ・ 占領軍、レバノン南部のいくつかの村に「家に帰るな」と脅迫
- ・ ・ 占領軍： ガザ地区南部から発射されたロケット弾を迎撃
- ・ シン・ベト報告書2024年 ヨルダン川西岸とエルサレムでの活動は減少、ガザからの拘束者は数千人



## モハメッド・アサフの「ガザに平和を」

神はどんな悲しみや心配の中にも私たちと共におられます。

ガザは涙と血でうめき声を上げています。

神は苦しみの夜、悲劇の恐ろしさ、痛みの深さにもかかわらず、私たちと共におられます。

神は私たちと共におられます。

傷がうめき、殉教者が闘いの舞台上で迷っているときも、神は私たちと共におられます。

神はいつでも、どんな瞬間も私たちと共におられます。

夜の闇から朝がやって来ます。

神は私たちと共におられます。

泣き叫ぶ孤児の子供に、文句を言わない不屈の囚人に、二度目の大惨事を目撃した祖父に、神が私たちに教えてくれた不屈の決意の教訓に平安あれ。

避難、飢餓、テントでの抑圧。

私たちはあらゆる種類の残酷な苦痛を目撃しました。私たちは歴史の手紙を辛抱強く書きました。

そして、高貴な人々のためにまぶたは一つも震えませんでした。

神は私たちと共にあります。

永遠の旅に出た愛する人を偲んで、母親は彼を呼んでいます。ガザに平和が戻りますように。平和、平和。偉大な人々に。私たちはその証人です。神は私たちと共にあります。

モハメッド・アサフの「ガザに平和を」の歌詞

作詞：サメ・アル・マドフン

作曲：ワエル・アル・ヤジジ

編曲：マフムード・アマール

ミックスとマスタリング：アミール・マロウス

# おいしいパレスチナ チーズ マナキーシュ



レマナキーシュ / マナキシュとは？

マナキーシュは、マナイシュとも発音され、レバノン、シリア、ヨルダン、パレスチナなどの中東諸国でよく食べられている伝統的なペストリーです。朝食やスナック、ラマダンの月にはスフルとしてよく出されます。また、この地域の地元のパン屋やレストランでも見つけることができます。

パンは通常薄く、チーズが全体の味に風味とねっとりとした要素を加えます。

## 器具

大きなボウル - 小麦粉、水、イースト菌の混合物を混ぜて生地を作るため。

ベーキング シート - マナキーシュを焼くため。

スタンド ミキサー (オプション) - 手で混ぜる代わりに、スタンド ミキサーを使用して生地を混ぜてこねることができます。

計量カップ - 材料 (水と小麦粉) を計量するため。

生地ローラー - (オプション) 生地を細かく形作るのに役立ちます。

## 材料

チーズ マナキーシュの材料: 中力小麦粉、海塩、砂糖、インスタント イースト、オリーブ オイル、水

中力小麦粉 - このレシピでは中力小麦粉を使用します。

ぬるま湯 - ぬるま湯を使用することが重要です。熱により小麦粉が液体を吸収する速度が上がり、休ませたりこねたりする時間が短くなり、生地が滑らかになります。

インスタント イースト - 通常のイーストに比べて生地进行膨らませるプロセスが速くなります。

オリーブ オイル - ふわふわの生地を作るのに役立ちます。

海塩 - 生地に風味を付けます。

材料 - チーズとニゲラ シード

アッカウィ チーズ -

ニゲラシード (オプション) - ブラックシードとも呼ばれ、栄養価が高いだけでなく、チーズにサクサクとしたナッツの風味を加えてくれます。

## 手順

ボウルにインスタントイースト、砂糖、温水を混ぜる

ステップ 1 | 小さなボウルに、ぬるま湯 1/2 カップ、

砂糖、ドライイーストを入れます。よく混ぜて、泡立つまで 2 ~ 3 分ほど放置します。

大きなボウルに小麦粉とイーストを入れます

ステップ 2 | 大きなミキシングボウルに、小麦粉 1 と 1/2 カップと塩を入れます。次に、イーストミックスと残りの水を注ぎます。泡立て器またはスタンドミキサーでよく混ぜ合わせ、ラップとキッチンタオルで覆い、10 分間放置します。

ボウルに入れた生地を膨らませる前に混ぜる

ステップ 3 | 残りの小麦粉とオリーブ・オイルを混合物に加え、小麦粉をまぶした表面またはミキシングボウルで約 5 ~ 7 分間、生地が滑らかで弾力性が出るまでこねます。手でボウルと生地に数滴のオリーブ・オイルをこすりつけ、布と毛布で覆い、暖かい場所で約 30 分間生地を膨らませます。

膨らんだ後のボウルに入った生地

ステップ 4 | 30 分後に膨らんだ生地。

ベーキングトレイでボール状に切った生地 (ゴルフボール程度の大きさ)。

ステップ 5 | 生地を小さなボール (ゴルフボール程度の大きさ) に分けます。

生地の小片を平らに伸ばし、ベーキングシートに置きます。

ステップ 6 | 手または生地ローラーを使用して、各ボールを平らな円盤 (厚さ約 1/4 インチ) に伸ばし、油を塗ったベーキングパンに置きます。

ベーキングシートでチーズとニゲラシードを散らした小片を平らに伸ばし、詰めてから焼きます。

ステップ 7 | 生地の上にチーズを均等に広げ、縁の周りに小さな縁取りをし、その上にニゲラシードを散らします。

生地を平らにし、チーズを詰め、焼いた後にベーキングシートの上にニゲラシードを散らします。

ステップ 8 | 予熱したオーブンで約 12 ~ 15 分間、または底と縁が黄金色になり、チーズが溶けるまで焼き



1月7日は東方教会のクリスマスです。アルメニア正教は1月18日です。パレスチナでは3回クリスマスがある。

## 今号の内容

ガザ停戦の実現、その後の問題	1
「完全降伏」・ガザがイスラエルを破った	3
ガザでの停戦；終わりのない闘争の中で不安定な平穏	4
ジャラル氏を含むパレスチナ人囚人が解放された	6
停戦は植民地虐殺を終らされる事が出来るのか	7
ドローンのないガザを夢みる	9
パレスチナ日誌	10
パレスチナの愛した歌	14
おいしいパレスチナー	15
トピック	16



カマルアドワン病院の最後院長がイスラエルの戦車に向かって交渉に行った



1月2日イスラエル内でのカマル・アドワン病院の院長の釈放を訴える抗議行動



1月11日ドイツ・ブレーメンでの抗議デモ



1月2日パレスチナ自治施府はアルジャジーラの西岸での活動を禁止した



1月18日京都虐殺を止めろ



イスラエルに拘束されているカマル・アドワン病院のフサム・アブ・サフィア院長